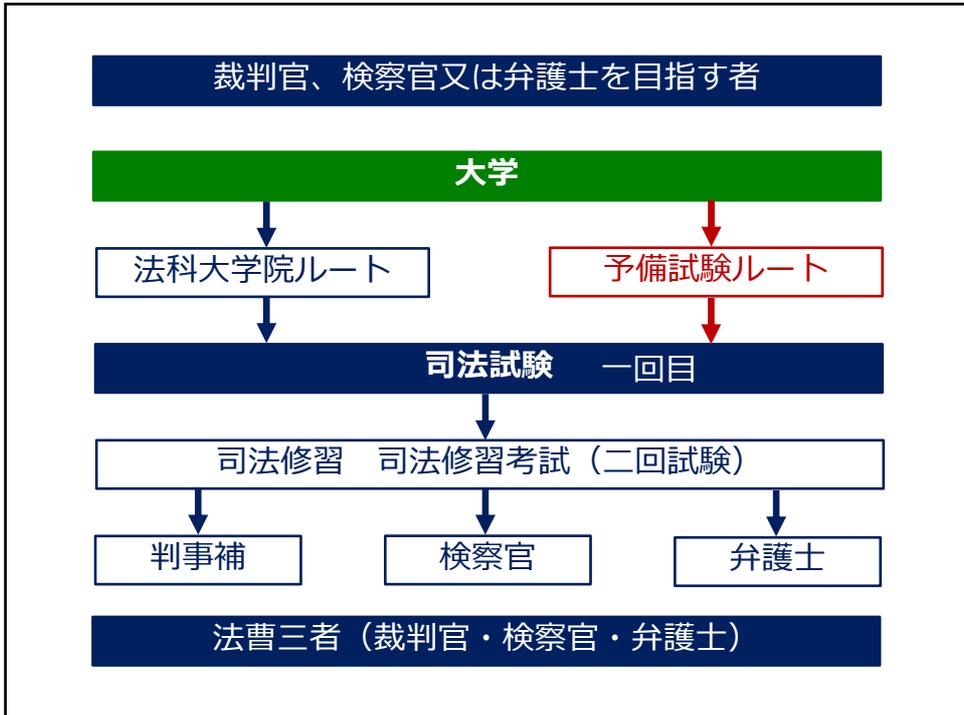


法曹（弁護士・検事・裁判官）になるためのルート

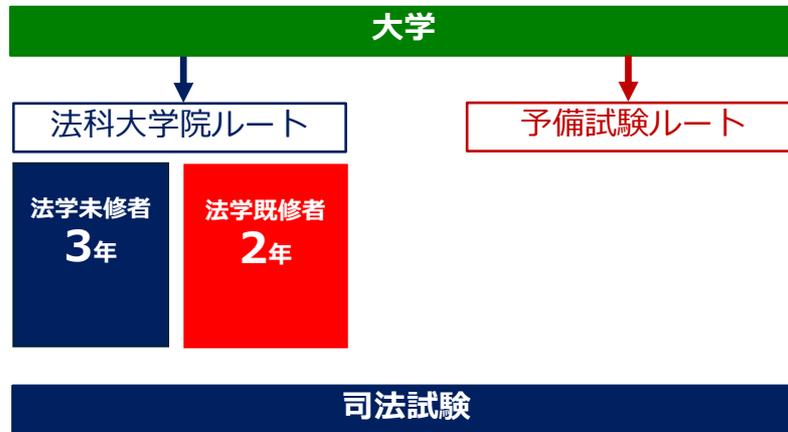
あなたの熱意・辰巳の誠意

辰巳法律研究所

Tokyo · Osaka · Web



なぜ3年コースと2年コースがあるのか？

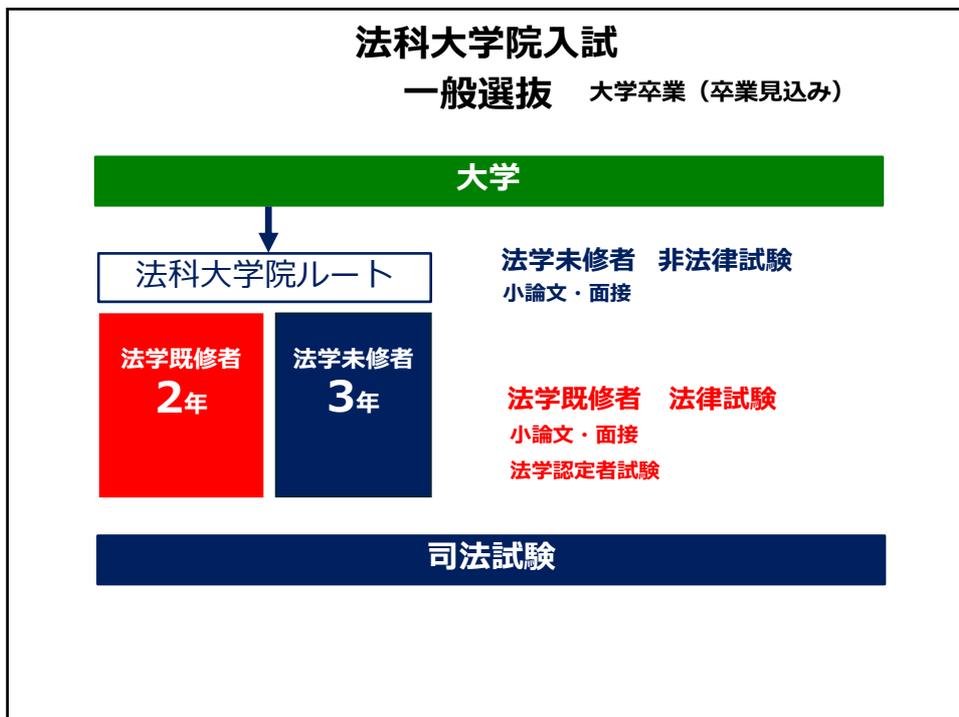


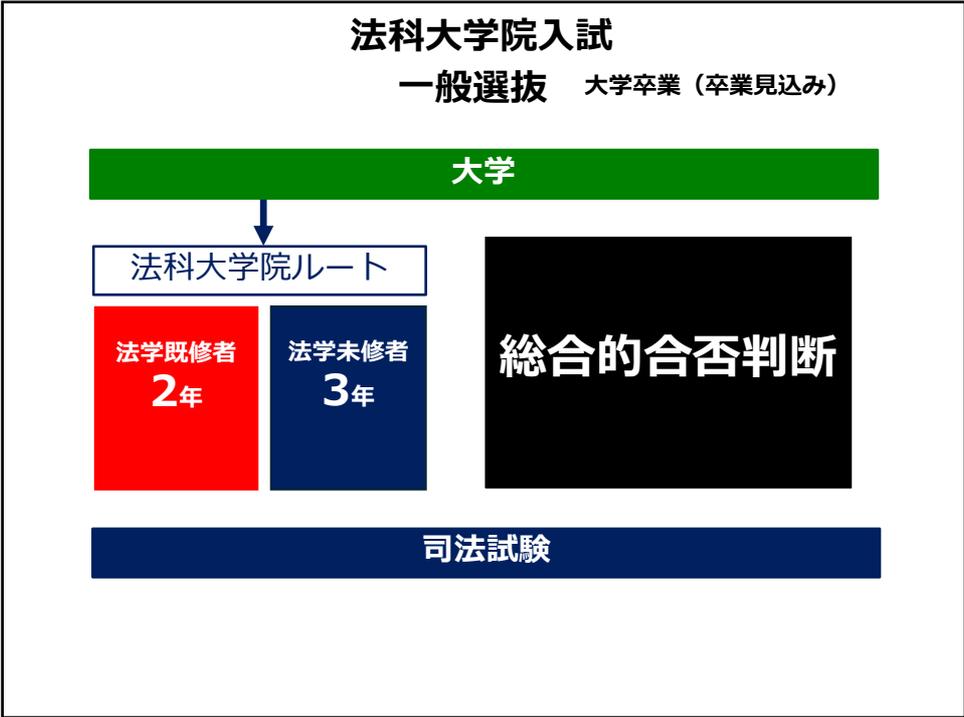
法科大学院制度の理念

法科大学院における法曹養成教育の在り方は、理論的教育と実務的教育を架橋するものとして、公平性、開放性、多様性を旨としつつ、(中略)基本的理念を統合的に実現するものでなければならない。

●司法制度改革審議会意見書（抜粋）







2024年度法政大学大学院法務研究科（法科大学院）

(1) 既修者試験A方式

試験5科目(論文式3科目:憲法・民法・刑法)、(短答式・論述式2科目:民事訴訟法・刑事訴訟法)の成績(配点合計 400 点)と書類審査を合わせて**総合的に評価、合否判定を行います**。短答式・論述式2科目については、短答式:論述式=8:2の割合で出題します。このうち、論述式については、数行で解答する問題を出す予定です。

書類審査では、出願書類の志願理由書等から文章による表現力、出身大学の成績、学業および社会的活動、資格、法曹としての資質・意欲・将来性などから、**総合的に評価**します。

(2) 既修者試験B方式

試験5科目(論文式5科目:憲法・民法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法)の成績(配点合計 400 点)と書類審査を合わせて**総合的に評価、合否判定を行います**。

書類審査では、出願書類の志願理由書等から文章による表現力、出身大学の成績、学業および社会的活動、資格、法曹としての資質・意欲・将来性などから、**総合的に評価**します。

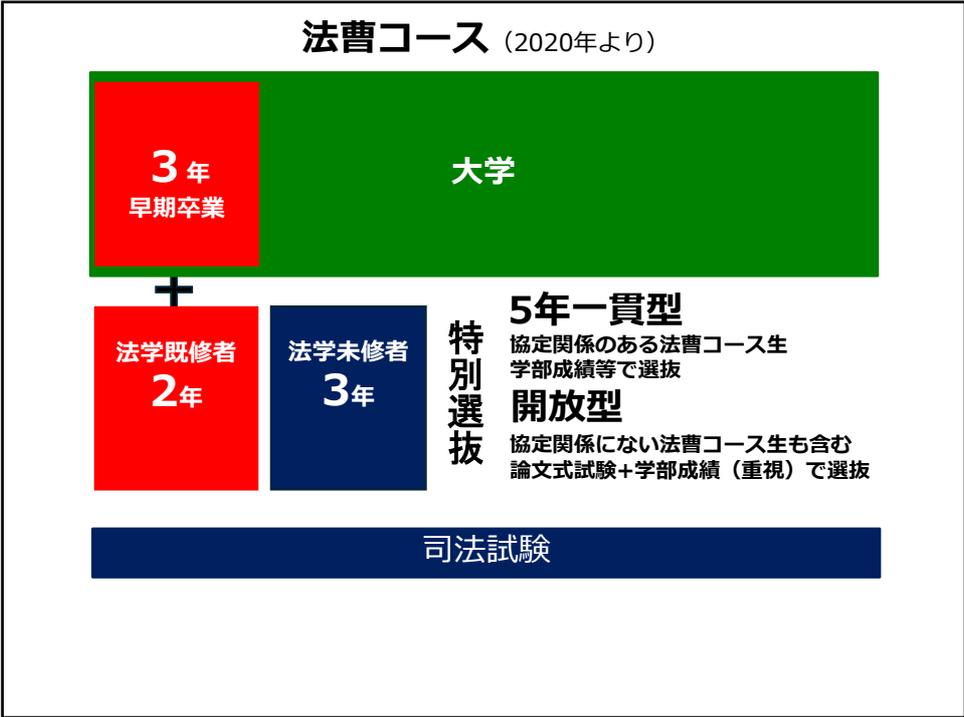
(3) 未修者試験C方式

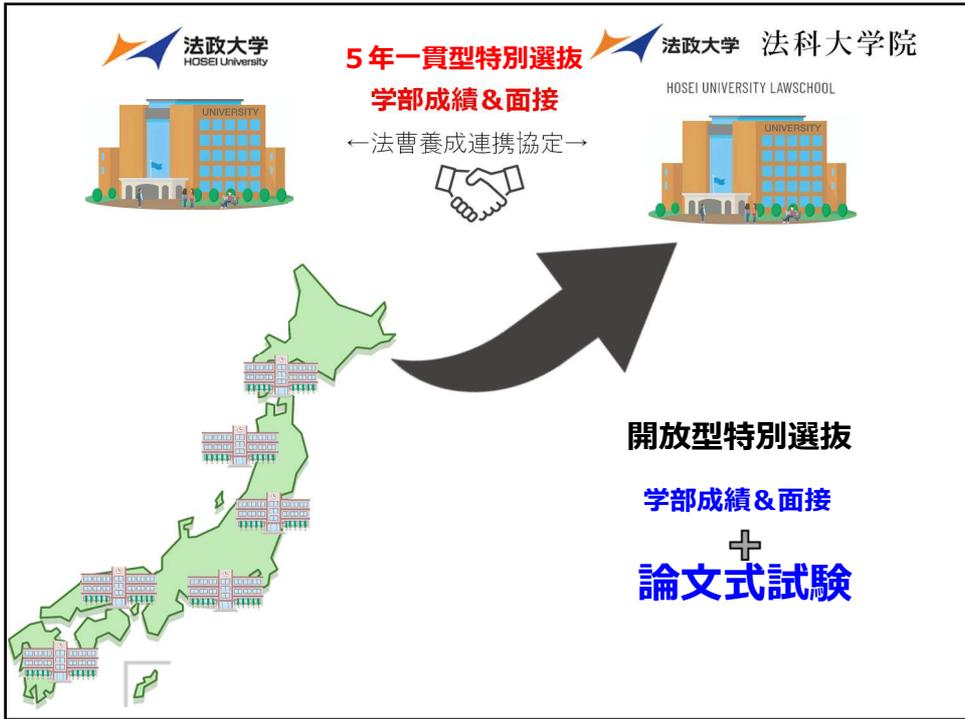
小論文試験、面接試験の成績と書類審査等を合わせて**総合的に評価、合否判定を行います**。

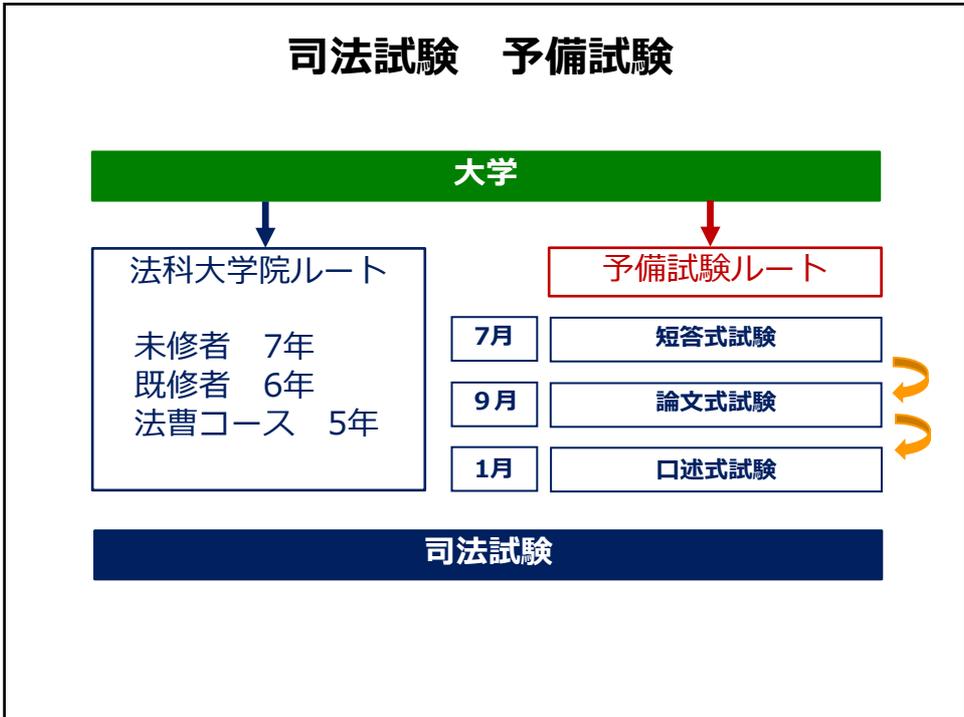
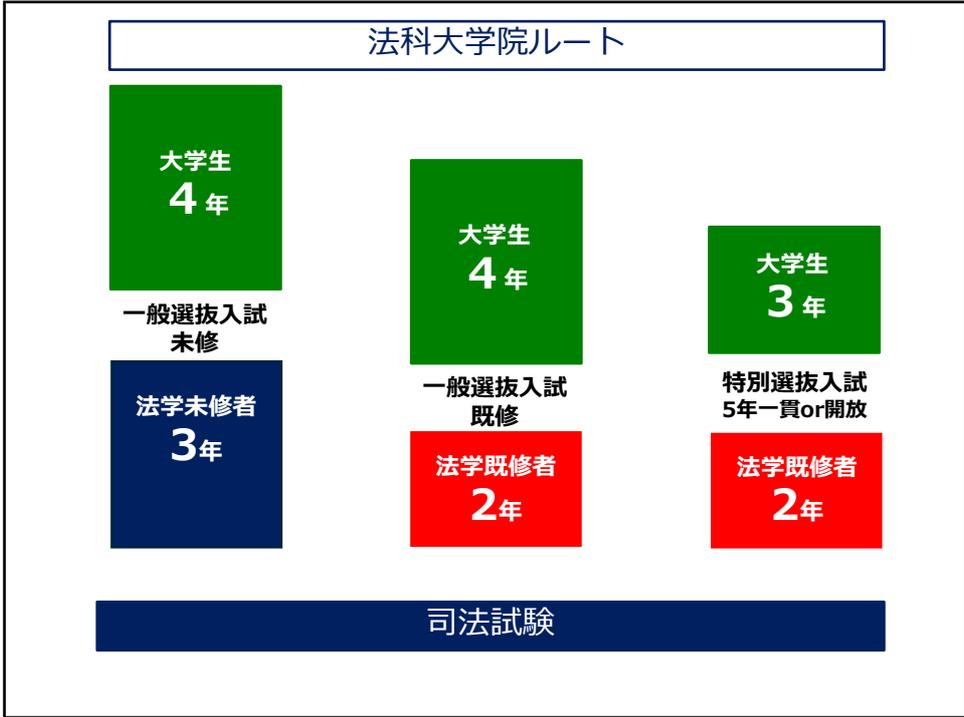
小論文試験(配点 300 点)では、法律や法学の知識を前提としない論説等の文章を提示します。論述解答に対し、長文読解の能力や論理的な文章の作成能力、自己の考えの表現力などを評価します。

面接試験(配点 100 点)では、出願書類をもとにした質疑により、学習意欲・能力や熱意、コミュニケーション能力などを評価します。

書類審査では、出願書類の志願理由書等から文章による表現力、出身大学の成績、学業および社会的活動、資格、法曹としての資質・意欲・将来性などから**総合的に評価**します。







司法試験 予備試験

(1) 短答式試験

【試験の期日】令和6年7月14日(日)

【時間割及び試験科目】

集合時刻	着席時刻	試験時間	試験科目
8:45	9:15	9:45～11:15 (1時間30分)	民法・商法・民事訴訟法
—	11:45	12:00～13:00 (1時間)	憲法・行政法
—	14:00	14:15～15:15 (1時間)	刑法・刑事訴訟法
—	15:45	16:00～17:30 (1時間30分)	一般教養科目

(2) 論文式試験

【試験の期日】令和6年9月7日(土)、8日(日)

【時間割及び試験科目】

試験の期日	集合時刻	着席時刻	試験時間	試験科目
9月7日(土)	8:30	9:00	9:30～11:50 (2時間20分)	憲法・行政法
	—	13:00	13:15～15:35 (2時間20分)	刑法・刑事訴訟法
	—	16:15	16:30～17:40 (1時間10分)	選択科目
9月8日(日)	8:30	9:00	9:30～12:30 (3時間)	法律実務基礎科目(民事・刑事)
	13:45	14:00	14:00～17:30 (3時間30分)	民法・商法・民事訴訟法

(3) 口述試験

【試験の期日】令和7年1月25日(土)、26日(日)

【試験科目】

法律実務基礎科目(民事)	法律実務基礎科目(刑事)
--------------	--------------

司法試験 予備試験

経済的な事情から法科大学院への進学が困難な人などのために、司法試験予備試験に合格することで、法科大学院を経由せずに司法試験を受験することが可能となる制度

(文部科学省ウェブサイト) 法曹養成制度の全体像

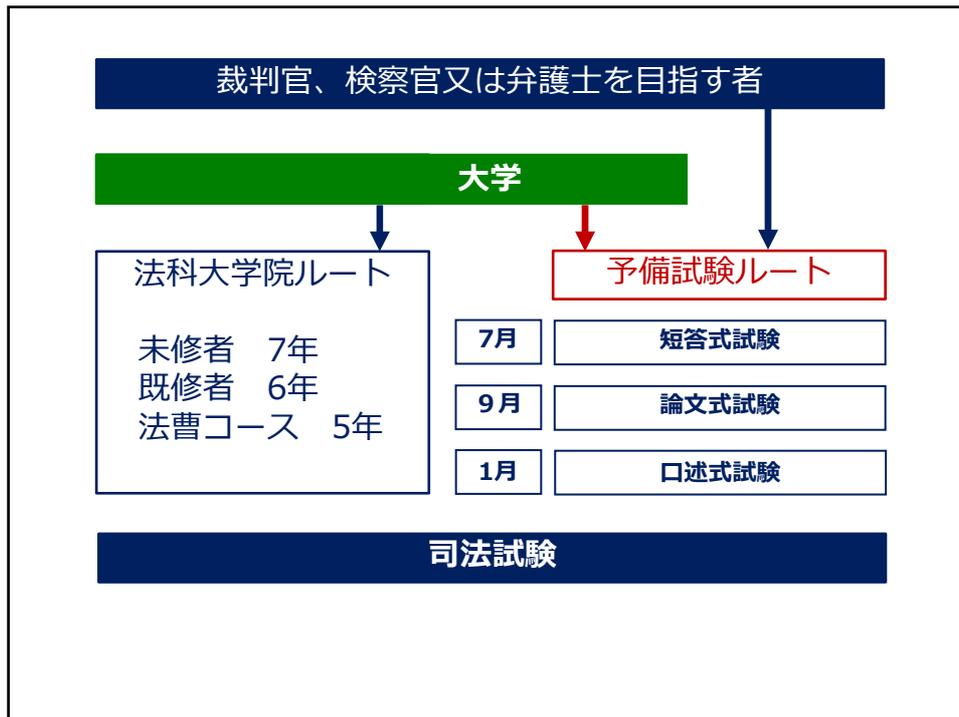
法科大学院を経由しない人にも法曹資格を取得する 途を確保するために設けられた趣旨から、それらの人にも公平に司法試験の受験資格が与えられるよう配慮する必要がある。そして、予備試験が、司法試験を受験する資格を与える試験

(司法試験委員会決定)

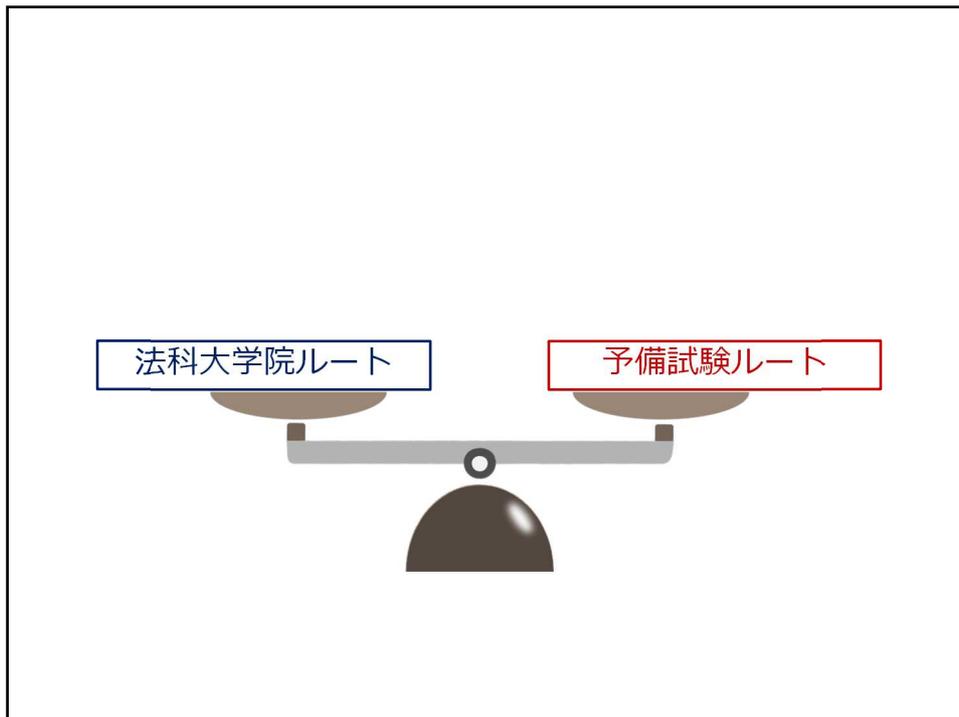
「法科大学院修了者と同等の学識及びその応用能力並びに法律に関する実務の基礎的素養を有するかどうかを判定する」

(司法試験法5条)

受験資格なし 誰でも受験できる 法科大学院修了と同じ扱い



司法試験 予備試験				
予備試験	2023	2022	2021	2020
出願者	16,704	16,145	14,317	15,318
受験者	13,372	13,004	11,717	10,608
短答合格者	2,685	2,829	2,723	2,529
短答合格率	20.0%	21.8%	23.2%	23.8%
論文採点対象者	2,544	2,679	2,619	2,428
論文合格者	487	481	479	464
論文合格率	19.1%	18.0%	18.3%	19.1%
口述合格者	479	472	467	442
対受験者 最終合格率	3.6%	3.6%	4.0%	4.2%



司法試験受験資格取得

確率

法科大学院	◎	予備試験	△ or ×
-------	---	------	--------

Cost

① 金銭的成本

法科大学院	△ or ○	予備試験	◎ or △
-------	--------	------	--------

② 時間的成本

法科大学院	△ or ○	予備試験	△ ~ ◎
-------	--------	------	-------

キャリアとの関係でのリスク

法科大学院	△	予備試験	◎
-------	---	------	---

司法試験不合格のリスク

法科大学院	△	予備試験	◎
2023年 司法合格率	40.6%		92.6%

人脈形成

法科大学院	◎	予備試験	△ or ×
-------	---	------	--------

司法試験

1 出願

【出願期間】 令和6年3月19日(火)～令和6年4月2日(火)
【令和6年4月2日(火)までの消印有効】

【受験票発送】 令和6年6月14日(金)を予定

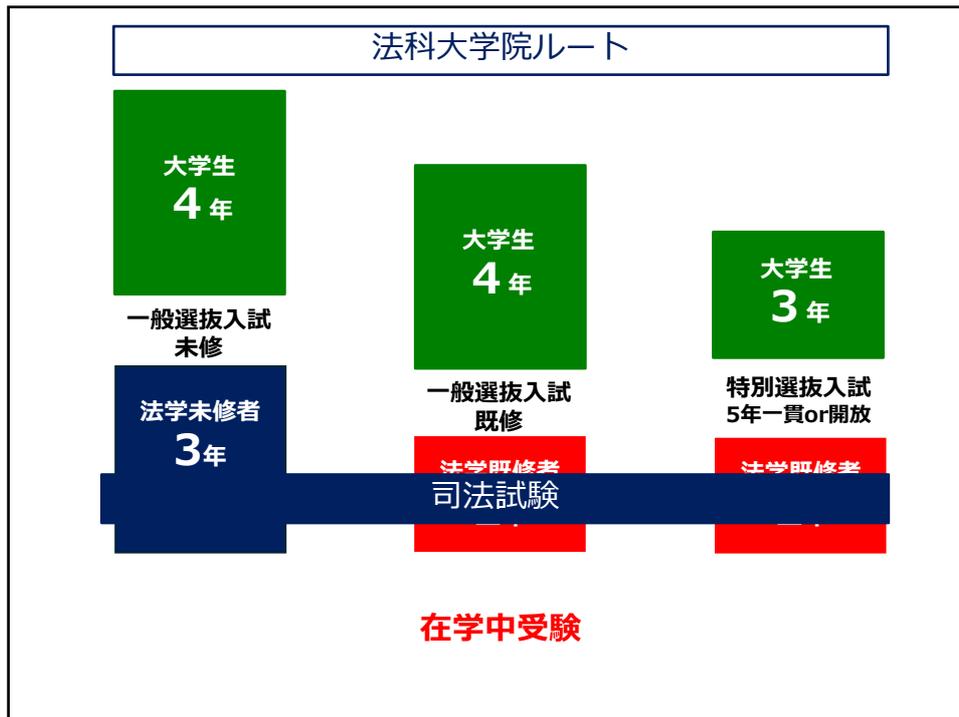
※令和6年6月21日(金)までに到着しない場合は、司法試験委員会にお問い合わせください。

2 試験日程

【試験の期日】 令和6年7月10日(水)、11日(木)、13日(土)、14日(日)

【時間割及び試験科目】

試験の期日	集合時刻	着席時刻	試験時間	試験科目
7月10日(水)	8:30	9:00	9:30～12:30 (3時間)	論文式試験(選択科目)
	—	13:30	13:45～15:45 (2時間)	論文式試験(公法系科目第1問)
	—	16:15	16:30～18:30 (2時間)	論文式試験(公法系科目第2問)
7月11日(木)	9:00	9:30	10:00～12:00 (2時間)	論文式試験(民事系科目第1問)
	—	13:00	13:15～15:15 (2時間)	論文式試験(民事系科目第2問)
	—	15:45	16:00～18:00 (2時間)	論文式試験(民事系科目第3問)
7月12日(金)	—	—	—	—
7月13日(土)	8:30	9:00	9:30～11:30 (2時間)	論文式試験(刑事系科目第1問)
	—	12:30	12:45～14:45 (2時間)	論文式試験(刑事系科目第2問)
7月14日(日)	9:00	9:30	10:00～11:15 (1時間15分)	短答式試験(民法)
	—	11:45	12:00～12:50 (50分)	短答式試験(憲法)
	—	14:00	14:15～15:05 (50分)	短答式試験(刑法)



司法試験

司法試験	2023	2022	2021	2020
受験予定者	4,165	3,339	3,733	4,100
受験者	3,928	3,082	3,424	3,703
短答合格者	3,149	2,494	2,672	2,793
短答合格率	80.9%	80.9%	78.0%	75.4%
最終合格者	1,781	1,403	1,421	1,450
対短答合格者 最終合格率	56.5%	56.3%	53.2%	51.9%
対受験者 最終合格率	45.3%	45.5%	41.5%	39.2%

司法試験			
司法試験	2023	LS出身	予備出身
受験予定者	4,165	3,807	358
受験者	3,928	3,575	353
短答合格者	3,149	2,797	352
短答合格率	80.9%	78.2%	99.7%
最終合格者	1,781	1,454	327
対短答合格者 最終合格率	56.5%	51.9%	92.8%
対受験者 最終合格率	45.3%	40.6%	92.6%

	最終 合格者数	受験率 %	短答合格率 %	2022年 最終合格率%	
	受験者数			対 短答合格者	対 受験者
既修	790	93.3	86.3	55.3	47.7
	1,656				
未修	218	88.4	64.7	33.0	21.4
	1,021				
差		4.9	21.6	22.3	26.3

法科大学院出身生	2022年 司法試験	受験者数	短答合格者数	最終合格者数
	1回目 受験者	1,251人	1,043人	668人
	2回目 受験者	554人	409人	169人
	3回目 受験者	363人	259人	85人
	4回目 受験者	286人	207人	44人
	5回目 受験者	223人	172人	42人

法科大学院出身生	2022年 司法試験	短答 合格率	最終合格率	
			対受験者	対短答合格者
	1回目 受験者	83.4%	53.4%	64.1%
	2回目 受験者	73.8%	30.5%	41.3%
	3回目 受験者	71.4%	23.4%	32.8%
	4回目 受験者	72.4%	15.4%	21.3%
5回目 受験者	77.1%	18.8%	24.4%	

令和5年司法試験最終発表 2023年11月8日

受験→合格/合格率	受験者数	短答合格者	最終合格者	受験→合格/合格率
全国法科大学院	3,575	2,797	1,454	40.70%
修了者	2,505	1,864	817	32.60%
在学中	1,070	933	637	59.50%
予備試験合格者	353	352	327	92.60%

1. 司法試験は、**1年でも早く受験すること**が重要。

2. 司法試験受験には、
法科大学院ルートと**予備試験ルート**がある。
予備試験の合格率は非常に低いため、
 いつ合格できるかは不明瞭。

3. **法科大学院ルート**は、**在学中受験制度**がある。
 既修入学を目指した学習なら現実的目標となる。
法曹コースも検討しましょう。

4. 予備試験に受験制限は無い。
法科大学院入学を目標としつつ**並行して受験**しよう。

5. 法科大学院ルートでも**予備試験ルート**でも、
 最終目的は司法試験に合格すること。
 司法試験合格を見据え
基礎的な法律学修を早くはじめよう。

司法試験及び司法試験予備試験のデジタル化

司法試験及び司法試験予備試験については、受験者の利便性の向上、試験関係者の負担軽減等を図る観点から、以下のとおり、試験のデジタル化の実現に向けた取組を進める。

- ・ **出願手続等のオンライン化及び受験手数料のキャッシュレス化**について、**2025年度（令和7年度）**からの開始に向け、資格情報連携等に関するシステムとのデータ連携を可能とするための既存システムの改修等を行う。
- ・ **CBT方式による試験について、2026年（令和8年）に実施する試験から**の導入に向け、システムの設計・構築等を進める。
 なお、2023年度（令和5年度）においては、2022年度（令和4年度）における調査検討で挙げた課題等に対処するための調査研究等を実施する。

CBT = Computer Based Testing

試験場でコンピューターを使って行う試験



参照：デジタル社会の実現に向けた重点計画/デジタル庁
 2023年（令和5年）6月9日

